

大学の強化指定部活動に対するマネジメント

～高知工科大学の強化指定クラブを事例に～

1210448 坂田冬弥

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 背景

現在、高知工科大学ではスポーツに秀でた人材を募集するスポーツ区分のAO入試（アドミッションズ・オフィス）が導入されている。AO入試の起源はアメリカにあり、そこでは志願者に対して履修科目や成績といった高等学校での学習履歴を確認し、入学後の学生生活を迎える準備を行ってきているかをチェックすることに主眼を置いた入試であった。日本では、AO入試は1990年に慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスで初めて導入された。その内容は、高等学校での学習履歴だけでなく詳細な書類選考と、時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせて受験者の能力・適性や学習に対する意欲・目的意識等を総合的に判定する方式に改変されたものであった

（林，2018）。このAO入試の導入により学業以外の秀でた才能を持った人材が大学に入学できるようになってきた。中でもスポーツ区分のAO入試の導入によって、高等学校でスポーツに特に力を入れていた学生が評価され大学教育を受けられるようになった。

しかし、その一方でAO入試を経て入学した学生の中には、大学での勉学と部活動の両立が難しい学生も少なくない。私自身AO入試制度で入学し部活動を続ける学生アスリートの一人である。学生アスリートは、勉学と部活動の文武両道を目指すことを前提に入学するが、いわば二つの役割を持っている。一方で、このような学生アスリートに対するサポート制度がまだ十分に確立されていないことが考えられる。2019年、日本では大学スポーツを推進するため、UNIVAS（一般社団法人大学スポーツ協会）が設立された。UNIVASでは、学生アスリートが学業と部活動の両立できるようにサポートを行うことが目的の一つとなっている。高知工科大学もUNIVASに加盟しているが、そのことに対する学生への認知度は低く、加盟後に、特にAO入試指定競技（強化指定部活動）への大学のサポートは変化が見られないと考えられる。

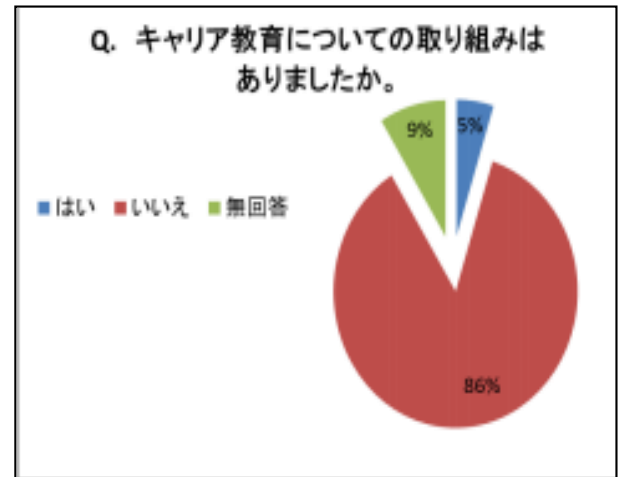


図1. キャリア教育の取り組み（濱崎，2017）

2017年に濱崎が行った調査によると、図1にもあるように高知工科大学の学生アスリート75名の内、86%の学生がキャリア教育のサポートがなかったと回答している（濱崎，2017）。この事実は、2020年現在も変わっていないことが考えられる。UNIVASに加盟している早稲田大学では大学事務局とは別に学生アスリートをサポートする部署があり、大学全体で大学スポーツの活性化、ブランド力向上に取り組んでいる。しかしながら、UNIVAS加盟大学が全てそのような体制を整えるには時間がかかるため、一つ一つの大学に見合った学生アスリートへのサポート体制の構築が求められている。本研究では、高知工科大学を事例に、学生アスリートへのサポート体制構築を検討していく。

大学側のサポート内容に強化が見られない原因は、学生アスリート側にもあることが考えられる。そのため、高知工科大学が学生アスリートに求めることを整理し、学生側の大学からのサポートに対する意見を明らかにすることで、これからの学生アスリートの在り方、課題を明らかにする。

これらを明らかにすることはこれからの高知工科大学運動部活動の発展に繋がると考えられる。

2. 目的

本研究の目的は三点ある。一つ目は高知工科大学が UNIVAS に加盟した後、助成制度が強化されてきたか明らかにすることである。二つ目は助成制度による部活動間の差の有無を明らかにすることである。三つ目は学生アスリートが十分なサポート内容を受けられていない原因が何かを明らかにすることである。この三点を軸とし、大学側と学生側が行うべきマネジメントの在り方を明らかにする。

3. 研究方法

本研究ではまず、高知工科大学の強化指定部活動にアンケート調査を行った。調査期間は 2020 年 8 月 23 日から 9 月 11 日であった。アンケート項目は以下の通りである。

- ① 学業と部活動の両立ができているか。
- ② UNIVAS という団体の存在を認知しているか。
- ③ UNIVAS に高知工科大学が加盟していることを認知しているか。
- ④ 高知工科大学が強化指定部活動に対して行っているサポート内容を認知しているか。
- ⑤ サポート内容の満足度(五段階評価)。
- ⑥ 部活動の違いによるサポート内容に格差があると感じているか。
- ⑦ 高知工科大学に求めるサポート内容(自由記述)。

次に、高知工科大学の事務局入試課における AO 入試担当者にインタビュー調査を行った。インタビュー項目は以下の通りである。

- ① UNIVAS に加盟してから高知工科大学内で変化したこと。
- ② 部活動(競技)の違いによるサポート内容に格差があるのではないか。
例：硬式野球部には専用グラウンドがあるが、ソフトボール部や水泳部には専用練習場がない。
- ③ 学生側から求められているサポート内容が可能か。
- ④ UNIVAS に加盟していることを学生側に認知させていく必要があるか。
- ⑤ 大学側が強化指定部活動生に対して力を入れているサポ

ート内容。

- ⑥ 高知工科大学での強化指定部活動の位置付け。
- ⑦ 大学側が強化指定部活動生に求めること。
- ⑧ 今後の大学としての課題。

4. 調査結果

4-1. アンケート結果

まず、高知工科大学の強化指定部活動を対象に行ったアンケート調査の回答は以下の通りである。

アンケート集計の結果、231 人のうち 131 人の回答を得られた。男女比の割合は 7 : 3 で男性の方が多い結果となった。学年では 1 年生男子、3 年生女子がやや多かった (表 1)。

表 1. 性別と学年

	性別			合計
		男性	女性	
学年	1年生	43	7	50
	2年生	16	7	23
	3年生	32	12	44
	4年生	12	2	14
	合計	103	28	131

また、今回調査した強化指定部活動の内訳は以下の通りである(表 2)。今回のアンケート調査では全体の約 6 割が野球部であった。

表 2. 所属部活動

部活動	所属部活動	
	度数	確率(%)
野球	74	56.49
ソフトテニス	7	5.34
水泳	9	6.87
剣道部	7	5.34
卓球	14	10.69
ソフトボール	4	3.05
男子バレーボール	10	7.63
女子バレーボール	6	4.58
合計	131	100

質問項目①「あなたは学業と部活動の両立ができているか」についての回答は以下の通りである(図 1)。「はい」と答えた人は 92 人であり、「いいえ」と答えた人が 39 人であった。3 割の人が学業と部活動の両立が出来ていないと回答した。

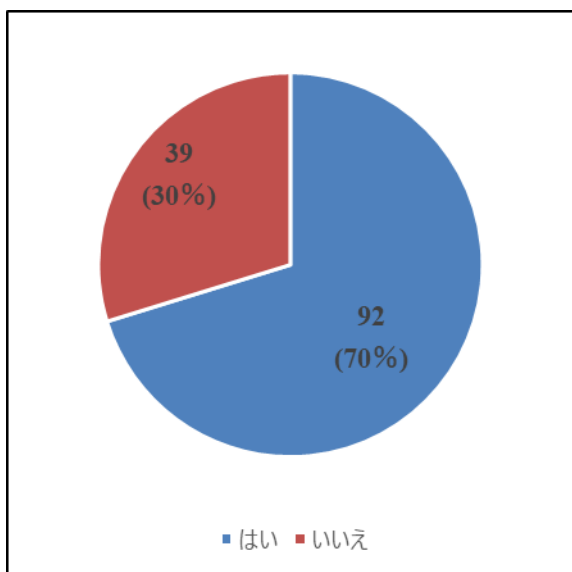


図 1. 学業と部活動の両立ができているか

質問項目②「UNIVAS という団体の存在を認知しているか」についての回答は以下の通りである(図 2)。「はい」と答えた人は 29 人であり、「いいえ」と答えた人が 102 人であった。約 8 割の人が UNIVAS の存在を認知していないと回答した。

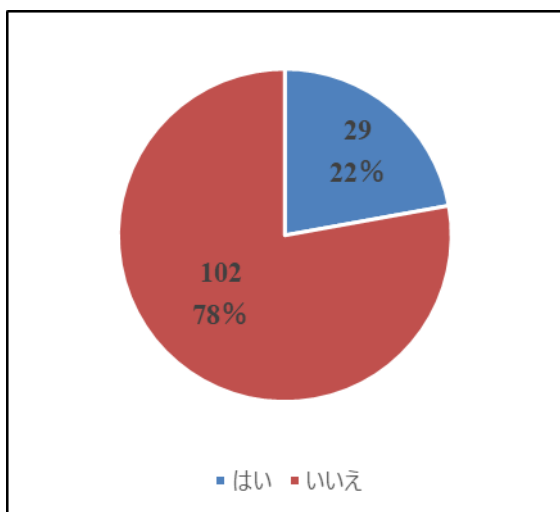


図 2. UNIVAS という団体の存在を認知しているか

質問項目③「UNIVAS に高知工科大学が加盟していること

を認知しているか」についての回答は以下の通りである(図 3)。「はい」と答えた人が 25 人であり、「いいえ」と答えた人が 106 人であった。約 8 割の人が認知していなかった。

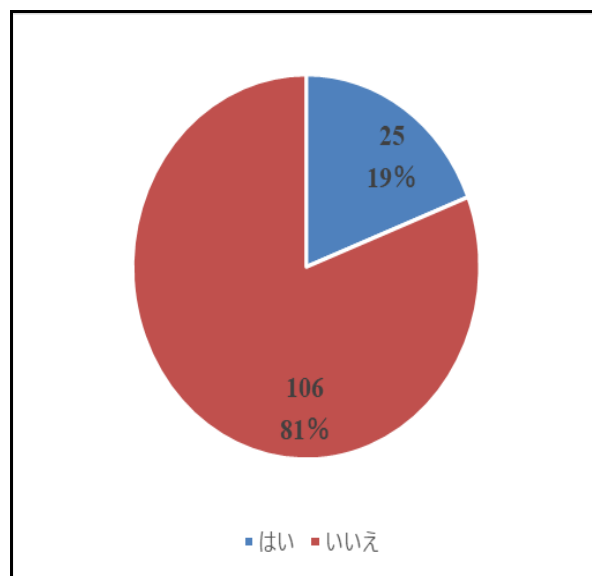


図 3. UNIVAS に高知工科大学が加盟していることを認知しているか

質問項目④「高知工科大学が強化指定部活動に対して行っているサポート内容を認知しているか」についての回答は以下の通りである(図 4)。「はい」と答えた人が 24 人であり、「いいえ」と答えた人が 107 人であった。約 8 割の人がサポート内容を認知していなかった。

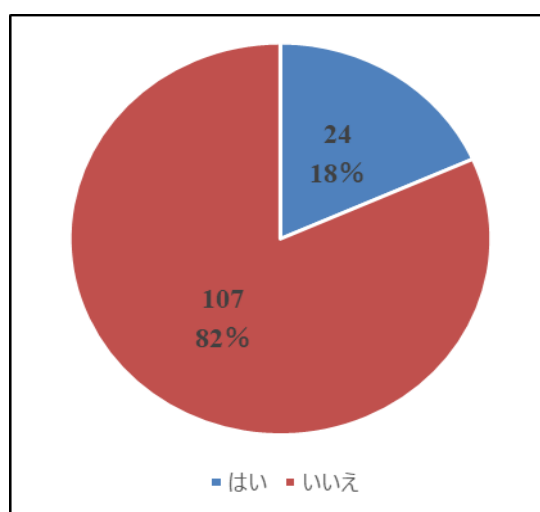


図 4. 強化指定部活動に対して行っているサポート内容を認知しているか

質問項目⑤「サポートの満足度」についての回答は以下の通りである(表3)。評価5が18人、評価4が15人、評価3が89人、評価2が8人、評価1が1人であった。概ね評価3が多いものの、野球、ソフトテニス、水泳、卓球、男子バレーボール部には満足度が低い学年がいることが明らかになった。

表3. サポートの満足度

	評価					合計
	1	2	3	4	5	
野球	0	1	51	10	12	74
ソフトテニス	1	1	4	1	0	7
水泳	0	1	8	0	0	9
剣道部	0	0	7	0	0	7
卓球	0	2	5	4	3	14
ソフトボール	0	0	4	0	0	4
男バレー	0	3	6	0	1	10
女バレー	0	0	4	0	2	6
合計	1	8	89	15	18	131

質問項目⑥「部活動の違いによるサポート内容に格差があると感じているか」についての回答は以下の通りである(図5)。「はい」と答えた人が14人であり、「いいえ」と答えた人が117人であった。14人の人が部活動の違いによる格差があると感じていると回答した。

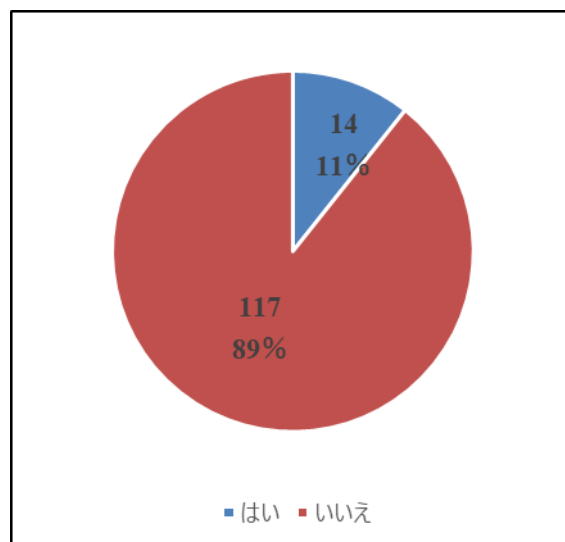


図5. 部活動の違いによるサポート内容に格差があると感じているか

質問項目⑦「高知工科大学に求めるサポート内容」についての回答は以下の通りである。

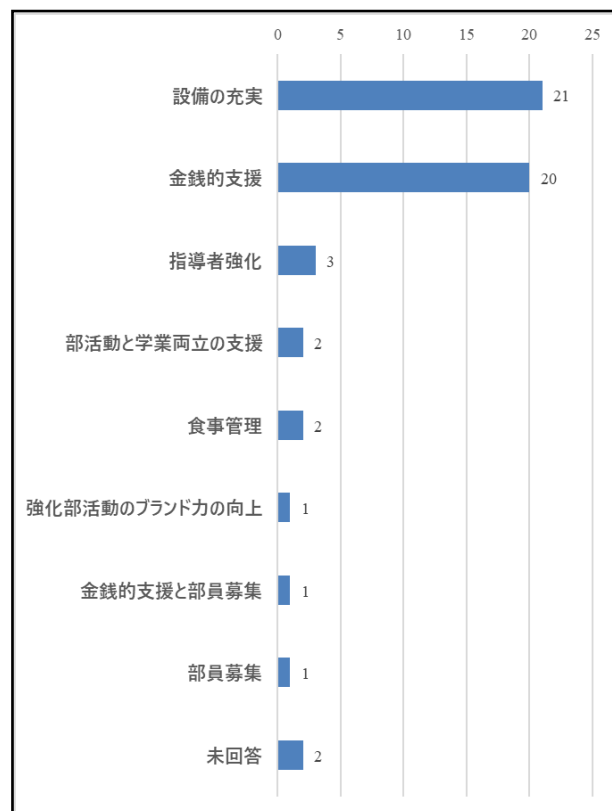


図6. 高知工科大学求めるサポート内容

4-2. インタビュー結果

次に、高知工科大学事務局入試課のAO入試担当者に行ったインタビュー調査の回答は、以下の通りである。

質問項目①「UNIVASに加盟してから高知工科大学内で変化したこと」

変化したことは特になかった。その要因としてコロナウイルスの影響が挙げられる。コロナウイルスの対策や感染予防をしながら部活動をどのように行うべきかに労力を割かれたため。

質問項目②「部活動(競技)の違いによるサポート内容に格差があるのではないか。」

例：硬式野球部には専用グラウンドがあるが、ソフトボール部や水泳部には専用練習場がない」

格差はある。格差が起こっている要因の一つとしてスポーツのメジャー度、競技人口の差が挙げられる。このメジャー度や競技人口の差は大学の受験者数に直結する。競技人口の多いスポーツに力を入れれば大学の受験者数も上がり大学の知名度も上がるからだ。学生側もこのような格差があると理解した上で入学を決めている。また、学生側から強い要望があれば大学側もサポート内容を改善する方向に動く。

質問項目③「学生側から求められているサポート内容が可能か」

金銭的支援については、現在の部活動運営は校友会からの支援で成り立っている。現状以上の金銭的支援を受けるには校友会に交渉する必要がある。交渉するにあたって、学生側も現状以上の競技成績を残す必要がある。

部活動を円滑に運営していくためのサポート内容は大学としてはバスの用意をしている。高知工科大学専用のバスを用意することで、県外遠征や大会に円滑に参加出来るようにしている。しかし、大学としても現状以上のサポートをしなければと考えているため学生側から現状以上のサポートを求める動きがあれば充実させられる可能性は高い。

質問項目④「UNIVASに加盟していることを学生側に認知

させていく必要があるか」

大学全体で見るとスポーツ学生は一部であるため、現状以上の周知活動はしない。既に高知工科大学のホームページにUNIVASに加盟していることは載せている。

質問項目⑤「大学側が強化指定部活動生に対して力を入れているサポート内容」

大学側が強化部活動に行っているサポート内容の中でも力を入れているものの一つとして表彰制度がある。この表彰制度はアスリート賞というものである一定の競技成績と学業成績を満たした生徒に現金を授与するものである。このアスリート賞を設けることで強化部活動生のモチベーションに繋がり、金銭的にも支援できると考えている。

また、校友会からの助成金で毎年各強化部活動に対して助成金を分配している。この助成金によって部活動に必要な道具を購入できる。

そして、特に力を入れているのがAO入試制度の実施だ。AO入試制度を導入することにより学業で劣っていても高校時代の競技成績で高知工科大学に入学することができる。よって、この入試制度で高知工科大学の入り口を広げることができる。このような点に大学側は力を入れている。

質問項目⑥「高知工科大学での強化指定部活動の位置付け」

高知工科大学での強化部活動の位置付けは大学の広告塔のような役割を担っている。強化部活動を強化することで高校生にアピールすることができる。これは大学の受験者数増加に直結する。

また、強化部活動が活性化すれば大学全体の活性化に繋がる。

質問項目⑦「大学側が強化指定生に求めること」

高知工科大学側が強化部活動生に求めること一つとして競技成績を上げることが挙げられる。高知工科大学の強化部活動は大学の広告塔である。競技成績が上がれば上がるほど大学の知名度が上がるからだ。

また、強化部活動生には学生生活だけでなく私生活でも他の学生の模範となる存在になって欲しい。

質問項目⑧「今後の大学としての課題」

今後の高知工科大学の課題として入試制度の見直しが挙げられる。2020年の高知工科大学のAO入試制度は基本的に各部活2名までという定員が決まっている。この入試制度では野球やバレーボールといった団体競技では補強していくことが難しい。その為、各競技に適切な定員を定めることが課題として挙げられる。

そして、強化指定部活動とそうでない部活動の差別化をすることだ。2020年での高知工科大学の運動部活動の現状は強化指定部活動と指定されているにも関わらず、強化指定部活動でない部活動との差別化は見られない。これでは強化指定部活動生のモチベーションは上がらない。

5. 考察

本研究の目的は、高知工科大学がUNIVASに加盟した後、助成制度が強化されてきたか明らかにすること、助成制度による部活動間の差の有無を明らかにすること、学生アスリートが十分なサポート内容を受けられていない原因が何かを明らかにすること、の三点であった。この三点を軸とし、大学側を学生側が行うべきマネジメント思考の在り方を明らかにすることを試みた。

まず、一つ目の高知工科大学がUNIVASに加盟した後、助成制度が強化されたかどうかについては、アンケート調査・インタビュー調査の結果からも、特に強化はされていなかった。この結果は学生の実感としても、大学側のインタビュー調査からもわかるようにまだUNIVASが設立されて間もないことも影響していると考えられる。また、大学側が強化できていない要因の一つとしてコロナウイルスの存在が挙げられた。UNIVASに加盟するという事は、大学スポーツを様々な面から充実させるということをつなげるはずであるが、近年ではコロナウイルスの状況によって、大学側も十分な推測が出来なかったことが考えられる。しかし、有事の時にこそUNIVASに加盟していることで、他大学との連携を図って情報交換しつつ、効率よく部活動をマネジメントしていくもできるのではないだろうか。

また、変化がないことの更なる原因としては、大学側の意識として強化部活動へのサポートを最低限で良いと考えているからだと考えられる。これは、大学のブランディングとし

てUNIVASの名前を活用している意識が強く、それ以上のことが行われていないからであるとも言える。大学のホームページなどで大学側から大学外へ向けてUNIVASカップで優勝したことなどの情報発信をしているが私たち強化指定部活動生にとっては、そこにどのような価値があるのかを実感することが出来ていないのである。UNIVASに加盟することで、一般的には加盟大学やその学生は様々なメリットがある。安全な競技環境や指導環境といったガバナンスの確保、外部資金の獲得、ブランド力向上、表彰制度の実施、指導者研修の実施、地区大会などでのメディカルサービスを受けられるというメリットが得られる(スポーツ庁, 2018)。そして学生はハラスメントなどを対象とした窓口を設置し学内では言いにくいことが相談できる体制、学習環境とキャリア形成、コミュニティの形成などがあるとされている。単なる情報発信ではなく、そのメリットを最大限有効活用し、学生にとって大学スポーツが価値のあるものになるように、双方の意識づけが重要になってくる。

二つ目の助成制度による部活動間の差の有無については、実際にあるという結果だった。強化指定部活動生に行ったアンケート調査では、学生で部活動の助成制度の差を感じている学生は少数だったが、大学側に行ったインタビュー調査では差別化を意識しているという結果だった。差別化をしている要因としては、まず競技のメジャー度や競技人口の差が挙げられる。大学側の意見として競技人口が多くメジャー度が高い競技のサポートに力を入れ、競技結果が上がれば高校生やその保護者などの受験者関係者にアピールすることができ、受験者数増加に繋がるという考えがあるからだ。現状では、学生が差を感じていることがなかったため、大きな問題にはなっていないが、今後、さらなる差別化を行っていった際に、メジャー化以外の明確な理由付けも必要となってくるであろう。

三つ目の学生アスリートが十分なサポート内容を受けられていない原因については学生側が十分なサポートをしてもらえるような振る舞いができていないことが挙げられる。これは強化部活動生が大学の広告塔であることを理解していないからだと考えられる。また大学側がUNIVASの利点を理解しきれていないことも要因の一つではないかと考える。UNIVASの利点の例として外部資金の獲得が挙げられる。こ

これは学生アスリートが部活と学業の両立や安全確保の環境を提供する際の UNIVAS 提供のプログラムや資金を活用できるといったものだ。これを活用することができれば、学生側からの意見にもあったような金銭的支援をさらに叶えることができるのではないだろうか。

また、強化指定部活動生にアンケート調査を行い文武両道が出来ていないと回答した人が約三割だったのに対して、文武両道の支援を求めている人が僅か二人であった。この結果から強化指定部活動生の学業へ対しての問題意識の低さもサポート内容が充実していかないことの一因であろう。

全体を通じては、大学側が助成制度の決定を、競技力や競技のメジャー度で決めていく動きがあることが分かった。しかし、今後の人口減少などを考えると大学のブランディングをスポーツの競技力とその競技のメジャー度によって構築していくことは危険である。人口減少によってこれからは 18 歳以下が減少していくことが考えられる。高知工科大学のように地方の国公立大学が大規模大学に対抗していくためには、単に競技力を売りにするのではなく、サポート内容を充実することや、学生の文武両道意識をさらに高めることによって、独自の魅力を構築することが重要であろう。一般的に、UNIVAS はまだ設立して間もないことから、規模の大きな私立大学を中心に連携を深める動きがある。高知工科大学は公立大学であり、全国的にみてもやや小規模の大学に分類される。つまり、スポーツを活用しつつ独自の良さを構築していこうとすれば、競技力や競技のメジャー度だけで充実を図っていくのではなく、地域との取り組みなどを全体として増やしていくことも有効なのではないだろうか。

また、大学としてスポーツ局(スポーツ専門部署)をつくることも今後必要であると考えられる。高知工科大学では、入試課が AO 入試をサポートしており、入学後の強化指定部活動生とそうでない学生のサポートは一貫して学生支援課が行っている。しかし、近年運動部活動の競技成績が上昇傾向にある早稲田大学では、大学内の運動部活動を統治し、大学内外の諸機関と連携を取りながら運動部活動を支援することを目的とした競技スポーツセンターという部署が 2003 年に設立されている。この競技スポーツセンターの事業内容は運動部活生の健康管理、指導者のコーチサミット、奨学金・キャリアサポートの実施などが挙げられる(早稲田大学, 2020)。

こういった早稲田大学が行っている支援は UNIVAS に加盟した大学は受けることが可能である。高知工科大学でも早稲田大学のようにスポーツ局を作ることが出来れば、より円滑に部活動を支援することができるのではないだろうか。

6. 結論と提案結果

本研究で行った強化指定部活動生へのアンケート調査、大学事務局へのインタビュー調査のこの二つの調査から、筆者はより良い高知工科大学の強化指定部活動へのマネジメントを行うために次のような方法を提案する。

- ① UNIVAS に加盟することのメリットを大学側と学生側が理解する。
- ② 大学側は UNIVAS に則りサポート内容を検討し、ブランディングだけに力を入れるのではなく、強化指定部活動生に内容を理解できるように伝える。
- ③ 学生側はサポートを受ける側であるという意識を持ち、より良いサポートを大学からしてもらえるように振る舞い方から考えていくべき。
- ④ 大学事務局に強化指定部活動をサポートするスポーツ局のようなものを作るべき。

本研究では、筆者自身が強化指定部活動生であり、部活動を続けていく上で大学側のサポートが十分ではないと感じたことが背景である。

そして、高知工科大学の強化指定部活動生へのアンケート調査、大学事務局へのインタビュー調査を行い、学生側の意見と大学側の意見を比較し問題点を明確化してきた。中でも筆者は学生側の強化指定部活動生のサポートを受ける側である意見が低いことに着目した。強化指定部活動生の約三割が部活動と学業との両立が出来ていないのに対して学業のサポートを求めている意見が 2 人だけだった。この結果から強化指定部活動生の部活だけ力を入れておけば良いという意識が伺える。しかし、この意識を変えなければ現状以上のサポートを受けることが困難である。

そして、UNIVAS に加盟したことのメリットを学生側と大学側の両方が十分に理解することが必要である。UNIVAS に加盟したメリットを最大限生かすことが出来れば、高知工科大学の強化指定部活動は活性化し、大学全体の活性化に繋が

ると考えられる。

上記の二点をより円滑に進めていくためには、早稲田大学のようにスポーツ局を設けることが必要であると考え。スポーツ局を設けることで各競技へのサポートが出来る証明となり、競技成績だけでなくスポーツ局の存在で大学のブランディングにもつながるのではないだろうか。

そして、大学側と学生側がお互いに強化指定部活動があるという意識と強化指定部活動がどうあるべきなのかという意識を持つことが必要であると考え。

謝辞

最後に、本研究を進めていくにあたりご協力頂いた高知工科大学の強化指定部活動生、大学事務局の方々、助教に深く感謝申し上げます。

参考文献

・林篤裕（2018）アドミッション・オフィスの機能と役割-多面的・総合的評価を実現するために-名 古屋高等教育研究 第 18 号。

・濱崎羅奈（2016）学生アスリートにおけるキャリア教育の一考察～高知工科大学のアスリート教育の在り方とは～。

・UNIVAS(ユニバス)大学スポーツオフィシャルサイト

<https://www.univas.jp/>

・Q&A : スポーツ庁

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/univas/list/1410334.htm

・早稲田大学 競技スポーツセンター

<https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/>

・スポーツ庁 Web 広報マガジン | 大学スポーツ協会

「UNIVAS（ユニバス）」が設立！期待される大学スポーツの新時代へ【後編】

<https://sports.go.jp/tag/policy/univas-1.html>